

道徳のかけ橋

令和3年7月30日発行
第 2 4 号
福島県教育庁
義務教育課

「新型コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止に向けた道徳科の教材」を活用してみませんか

昨年度より、義務教育課 HP よりダウンロードできるようにしています。また、動画教材、ワークシート例も掲載しており、学校の実態に合わせて使用することができます。

新型コロナウイルス感染症に係る差別や偏見は、今もなお、子どもだけでなく、家庭や地域にも関わる社会問題となっています。誰しもが身近に起こりうる可能性があることから、学校や家庭で子どもたちと真剣に向き合い、差別された人の思いや、差別をしてしまう人の思いを考えることが大切です。東日本大震災時には、放射線による差別や偏見のために辛い思いをした人がいます。震災を経験した本県だからこそしっかりと、差別や偏見の問題に向き合いたいものです。

【活用例】



公正、公平、社会正義の内容項目として扱った活用例
令和2年9月発行「道徳のとびら」参照



学校と家庭とが連携した活用例
教材を持ち帰り、家庭で話し合う。
家庭からのコメントをもらい、内容を学校
便り等で伝える。



福島県教育委員会 道徳科教材

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/edu/gimukyoiku57.html>

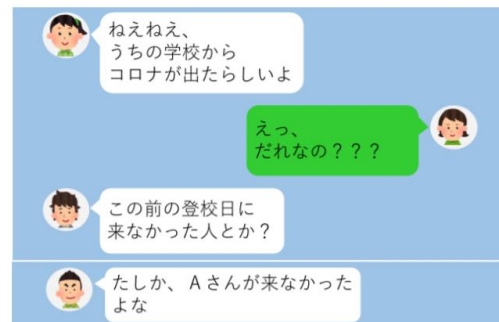
低学年用

みきさんと わたしは なかよしです。
みきさんは、うまれつき ぜんそくという びょうきが あって、くすりを のんで います。いつもは げんきだけれど、ときどきせきが ひどくなる ことが あります。
「ごほん、ごほん。」
きょうは、せきが つらそうです。



高学年用

それは、ちょっとしたチャットのつぶやきから始まった。



中学年用

朝のできごと
ぼくのクラスはとても仲がいい、じまんのクラスだ。
だから毎日学校に行くのが楽しかった。
ある日、お父さんがコロナウイルスにかんせんしたことが分かった。家族はみんな、うつっているかもしれないと言われ、ぼくも、けんさをした。お医者さんに
「コロナウイルスにかんせんしています。」
と言われたときはショックだった。ぼくは、しばらく、家から出ることができなくなった。



中学校用

医療従事者の SNS の投稿

私は看護師をしています。私が勤める病院は、新型コロナウイルス感染症にも対応する病院です。私は小児科のため、感染した患者さんと直接関わることはないのですが、病院では感染予防のために精一杯の努力をしています。私には、3歳の娘がいますが、感染しないようにできることは全てやっています。



しかし、保育園からは「医療従事者のお子さんは預かれません」と言われてしまいました。



令和2年度道徳教育推進校実践報告書

義務教育課HPよりダウンロードできます。家庭との連携を図った道徳教育や多面的・多角的に考える道徳科の授業の工夫等、参考になる取組が掲載されています。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/437853.pdf>

令和元年度道徳の礎 (いしずえ)

各学校に2冊ずつ配布しています。「ふくしまならではの」道徳教育の実現に向けて必要な理論や道徳教育推進校の実践等を集録し、ふくしまの先生方の悩みに寄り添う一冊になっています。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/378581.pdf>

令和2年度道徳教育実施状況調査の結果をお知らせします。

令和2年度道徳教育実施状況調査 (<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/464353.pdf> に全項目の結果一覧掲載しています) から特徴的な項目を抜粋して紹介します。道徳科を要とし、学校教育全体を通して行う道徳教育への取組に向けて、学校や学級の実態と照らし合わせながら御覧いただき、今後の参考にしてください。

1 「ふくしま道徳教育資料集」の活用場面について

① 道徳科の授業に活用した。	92.5%
② 道徳科以外の学校教育活動で活用した。	8.8%
③ 家庭学習等で活用した。	0.7%
④ その他(読書タイム、校長が行う全校道徳の授業等)	0.5%

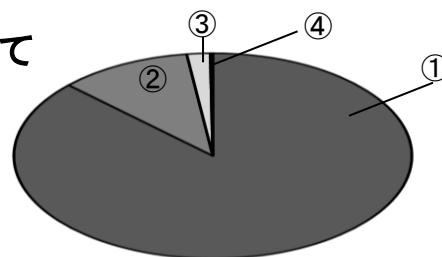
(複数回答可)



例年、多くの学校において本資料集が活用されています。授業だけでなく、東日本大震災を振り返る時間や全校集会、その他、読み聞かせとして日常の指導の中で活用することも可能です。学習指導要領では、地域教材の開発・活用が重視されています。震災後10年が経過しましたが、震災の教訓を継承し、改めて郷土福島について考えることができる教材がたくさんあります。「福島ならではの」道徳教育の充実に向けて、様々な場面で御活用ください。

2 心に響く多様な指導方法への取組について

① 教員は理解し、工夫して実践している	87.1%
② 教員はおおむね理解しているが実践できていない	10.8%
③ 教員の理解や取り組みは不十分である	1.9%
④ その他(年度内に研修会を実施予定)	0.2%



97.9%以上の学校は、教員に「一定以上の理解が進んだ」と回答しており、87.1%が「工夫して実践している」と回答しています。「多面的・多角的に考える授業」が増えてきており授業改善に向けて積極的に取り組んできた成果であると考えます。しかし「自己を見つめる授業」という点については、課題が多いです。評価の視点の一つである「自分自身との関わりの中で考えを深めているか」を見取るためには、話し合いを通して子どもが「自分はどうかな」と絶えず問いかけ、自分自身の価値観を見つめ直す時間が不可欠です。

昨年度は、道徳科の校内研修を実施した割合が減少しました(前年度比-8.7%)。指導と評価の一体化を図るためにも、授業改善に向けて継続的な研修をお願いいたします。

3 家庭や地域社会との連携による道徳の指導について

① 保護者が授業に参加した	23.4%
② 地域の人々が授業に参加した	7.3%
③ 保護者や地域の人々以外のゲストティーチャー	20.3%
④ ①~③について実施する予定はない	26.9%
⑤ ホームページや学級、学年便りで発信した	68.1%
⑥ その他(保護者の手紙やインタビューを活用、授業参観ガイドを作成、PTAや学級懇談会で活用。道徳ノートを持ち帰り、保護者が児童にメッセージを記入等)	3.6%

(複数回答可)



子どもが主人公役、保護者が主人公の母親役となり、役演技を通して「家族愛」について考える取組
(令和2年度道徳教育推進校実践報告書より)

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、家庭や地域社会と連携した道徳の指導の割合は減少しています。しかし、コロナ禍だからこそ、学校、家庭、地域が一体となって子どもを育てていく意識を共有することが大切です。ある地区では、家庭に教材を持ち帰り、子どもと共に考える取組を実施しています。また、道徳科の授業参観を「参観」から「参加」として、保護者が参加する授業を通して家庭との連携を深めてきた実践もあります。各学校や地域の実態に合わせ、工夫して連携を図っていきましょう。